

# FIND SELECT この一冊

プレゼント：  
ご希望の書名を書いてメール  
ぼっくすへお便りください。  
抽選で今月掲載の4冊の中か  
らお好きな本を1冊プレゼン  
トします。メールにてのご応  
募もOKです。

## がんとどう向き合うか

額田勲著  
岩波新書  
定価740円+税

がんは早期発見、早期治療で治る病気になったと言われます。本当でしょうか？2人に1人はがんに罹患し、3人に1人はがんで亡くなるほどありふれた病気ががんですが、実は今も予後の厳しい死の病であることに変わりありません。著者は医師。がん患者でもあります。だからこそ、がんに思うことの本当の厳しさが伝わります。がんは情報戦だともいますが、情報に振り回される消耗戦でもあるようです。それだけがんは得体のしれない難しい病気といえるでしょう。早期発見・早期治療がすべてという今の路線は大きな壁にぶつかっているのだといえます。「がん対策基本法」がこの4月に施行され、がん医療が全面的に再編されようとしていることもあって今こそ「がんと向き合う」ための新しい枠組みが求められています。「がん難民」という言葉さえある今のがん医療を切実に問うた、罪ある楽観をしないための一冊です。

## 介護戦隊いろ葉レンジャー参上 若者が始めた愛と闘いの在宅所

中迎 聡子著  
雲母書房  
定価1,700円+税

人間が人間として生き、人間らしく寿命を終えることが、こんなに難しいとは。著者が20代の若さで介護ホーム「いろ葉」を作ろうという強い思いにつき動かされたのは、ひとりの老女との出会いでした。介護所で大声で1日中暴れる、人の声は聞けない、便は垂れ流すという、超問題の認知症老人。でも著者は老女を認知症ではないと感じ、彼女が陥っている地獄から救おうと奔走し始めます。その老女が心の闇から少しずつ覚醒していくくぐりだりは劇的で、「心の地獄から今やっど解き放たれた」と語った瞬間から、彼女は人間として再び生き始めるのです。要介護度の重い認知症老人でも、こんな介護に接すればもしかしたら良くなるのではないか!?と思うほどです。著者たち若者の純粋な魂から発せられる言葉は、読む者の心の一番深いところに達して激しく揺さぶり、生きる元氣と勇気を与えてくれます。ぜひ読んでいただきたい、お勧めの一冊。

## 人は、なぜ“同じ間違い”を繰り返すのか 失敗の「予防学」

中尾政之著  
三笠書房  
定価1,500円+税

「1件の重大災害の裏には29件の軽災害があり、さらにその裏にはヒヤリハットした300件の体験がある」、これは失敗学で有名な「ハインリッヒの法則」の言葉です。どんな失敗や事故もルールがあり、その共通ルールを常に意識すれば、失敗や事故が未然に防げるといいます。大切なのは、失敗を隠蔽したり無視したりしないこと。近頃、食品加工業界の不祥事や医療事故がどうしてこれほど連発するのか、それは他人の失敗の教訓を自分のこととして生かす賢さに欠けているからです。ある統計では、客はサービスや清潔さに不満を抱いても、96%はクレームをいわず、その96%のうち91%は二度と来店しないといいます。貴重な1件のクレームの裏には大勢の客がいるのです。著者は生産技術の研究者ですが失敗学のエキスパートです。本書では誰でも起こりえる失敗、その対処法、防ぎ方のコツをわかりやすく教えてくれます。お勧めの一冊。

## 寡黙なる巨人

多田富雄著  
集英社  
定価1,500円+税

免疫学権威の著者が右半身不随の重い後遺症が残る脳梗塞に倒れたのは2001年。その後遺症、絶望との闘いの記録です。今も食事は命懸け、発語もできないといえます。リハビリで150m歩けるまでになったのにその後の前立腺がんの手術で全く歩けなくなりました。それでも続けられるリハビリ。発病によって失われた神経細胞は回復しないと見極める科学者の眼。しかし新しい神経回路によって生まれる自分の中の絶望的に鈍重な巨人「新しい人」を見つめる文学者の眼。凄まじい闘いの様子が語られます。しかも発病後に覚えたワープロを使って著作活動は続けられ、医療制度の改悪に対して障害者として抗議を続けています。麻痺とは、リハビリとは、障害を生きるとは、こういうことだったのかと頭と心が晴れる思いがしました。生命力に支えられた知性、知性に支えられた生命力。全ての病む人、病む人を癒す人に読んで欲しい絶対の一冊。